

4月1日に有馬守一さんに代わって狛江市の教育長に柏原聖子さん(54)が就任した。女性の教育長は狛江市初。

教育長就任の抱負 ■これまでの教育長が築きあげた教育の礎と多くの教育施策の実績を大切にしながら、市長部局と意思疎通を図り、中立かつ公正な教育を推進します。学校教育の充実はもちろん、生涯にわたって好奇心と向上心にこたえられる学びの環境を整えたいと思います。狛江市の教育環境が、市民の幸せにつながることを目指した教育行政であり続けられるよう、力を尽くしたいです。狛江市で女性の教育長は初めてですが、私自身は仕事をするうえで男女を特に意識したことはありません。女性教育長は多摩の26市では私ひとりですし、全国的にも少ないため、女性として仕事に対する姿勢や課題の着眼点、判断に至る視点が注目されるのではないかと考えています。

新型コロナウイルス感染症の影響 ■新型コロナウイルス感染症が学校教育に与えている影響は甚大です。これだけ長く教育活動が休止されることはありませんでした。入学式も急ぎよ校庭で催すことにしましたが、残っていた桜の木の下で記念写真を撮っている一年生の親子を見てうれしかったです。子どもたちには、自宅に留まることが互いを助け、命を守ることを学ぶ機会にしてほしいです。人の命は最も大切な

地域全体で子どもを育てることが大切だと感じています

ことであり、みんなが団結し克服するために辛抱をします。この困難が克服できた時に自分たちが自分の命を守り切り、相手を思いやる行動が取れたことを誇りに感じる日がくることを切に願っています。休校期間が長引いていますので、子どもたちの学びを保障するために英知を結集し



狛江市教育長

3の火 柏原 聖子さん

て、最善を尽くします。教員を志した動機 ■高校2年の時に進行性の血液疾患にかかり、5年後に足を切断することになる可能性があると言われ、車いす生活になると行動が制限されると考え、以前は難民を救う医療系の仕事を志していたのですが、できるだけ多くの人に出会える職業に志望を変えました。私の身体の変更に気付いてくださったのが高校テニス部の顧問の先生だったことから、子どもたちの健康の変化にいち早く気付いてあげら

れる養護教諭(保健室の先生)を志しました。幸い病気は5年後に完治しました。狛江の教育の特色と課題 ■狛江市はコンパクトシティとして顔と顔が見える関係づくりがしやすく、連携や協力が得られやすいことが特色です。狛江市の学校は、穏やかでありながら建設的な地域の皆様に支えていただいています。学校と保護者だけで子どもたちを育てることは限界があり、地域全体で子どもを育てることが大切だと感じています。また、狛江市はベッドタウンでもあるので、生涯にわたり学ぶことができる環境の整備と歴史や文化を継承し、持続可能な社会を見据えた生涯教育の充実が重要だと考えています。

柏原聖子さんの横顔=玉川大学卒業。八王子市立松が谷小学校に養護教諭として赴任。勤務の傍ら順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科を修了。東京都教職員研修センター指導主事、東京都教育庁指導部統括指導主事を経て世田谷区立中里小学校校長などを歴任した。23年に狛江市教育委員会教育部指導部統括指導主事、28年に狛江市教育委員会教育部理事兼指導室長を務めた。趣味=芸術鑑賞、スポーツ観戦、ゴルフ、フラワーアレンジメント。特技=スキージャンプ。好きな色=桜色、一斤染、白百合色。好きな食べ物=果物

老舗めぐり

◆ 87 ◆

有限会社マナベフラワー(駒井町1-8-4)は駒井町の本店とエコルマ1にある支店で切り花から鉢物、プリザーブドフラワー、葬祭用の花まで多彩な商品を扱う生花店。

創業者の間鍋實社長(73)は、店の近くの農家の次男として生まれた。父の喜代治さん(故人)から町役場農協へ就職するように言われたが、専修大学を卒業して都内の信用金庫に就職、中野区内にあった支店の外交員として働いた。その頃、家を継いだ長男の伸一さん(75)が昭和40年代半ばに米や野菜からバラの栽培に転換、その成功に刺激されて生花店への転職を志した。休みの日に渋谷区幡ヶ谷の生花店で約2年間働いて仕事を覚えた實さんは、仕事仲間のスキーツアーで知り合った中野区生まれの洋子さん(70)との結婚を機に3年7カ月勤めた信用金庫を退職、目黒駅前の生花店



間鍋實さん(左)と洋子さん

豊富な知識生かして多彩な生花届ける

マナベフラワー

に勤めて仕入れや花の管理を学んだ。洋子さんは結婚式前日に、實さんから信用金庫を辞めて実家近くで生花店を始めると聞いて驚いたが、その行動力と先見性を信じて受け入れたという。

生花店の開業には喜代治さんも協力、店舗付き貸家を建てて47年にオープンした。田園地帯から住宅地への転換が始まった頃で、店の周りに生鮮食品の店舗があるため、買い物客は集まったが、客が求めるのは仏壇に備える花が中心で、洋花はほとんど売れず、苦勞したという。そうした折、狛江市農業協同組合(当時)が手がける葬儀用祭壇の花飾りを担当することになり、経験も知識もなかったが、葬儀全般について勉強し、実地で仕事を覚えた。洋子さんも3人の子を育てながら店でも客に対応するなどして支え、店はようやく軌道に乗った。

實さんは立地条件の悪さを克服するため、生花の配達ネットワークの花キュービット協同組合に加盟。さらに狛江駅南口ロータリーに面した新築ビルに58年に支店を開いた。また、本店を建て直して大型の冷蔵庫を設置、

扱う花の種類も増やした。狛江駅北口再開発にともなって狛江市商工会が募集した駅前商業施設のテナントに応募し、南口ロータリーにあった支店を平成5年にオープンしたエコルマ1へ移した。

長女の結花さんは高校卒業後に花の専門学校で学び、現在は支店を担当している。長男の達也さん(37)も大学卒業後に一般企業に勤めた後に退職して一般社団法人JFTD日本フラワーカレッジで生花店の仕事やフラワーデザインなどを学んだ後、現在は仕入れをはじめさまざまな業務をこなしている。

實さんは「まったく知らない世界に飛び込んで懸命に勉強して得た豊富な商品知識と、生まれ育った地元の人とのネットワークのお陰でこれまで続けてこられた。2人の子どもが若いセンスを生かして時代に合った店にしてほしい」と話し、達也さんは「地域密着をモットーに既存のお客様に喜んでもらうとともに、大型店との差別化のために良い商品を手頃な価格で提供できるよう努力したい」と話している。

マナベフラワー◇本店 ☎3480-9458、営業時間=午前9時30分~午後6時、火曜休み◇支店 ☎3480-6987、営業時間=午前10時~午後9時、火曜休み。

昭和47年に創業/サラリーマンから未知の世界へ転進

市民と行政が協働で課題解決

市民協働提案事業を募集

狛江市では、多くの人が悩んでいる公共的な課題の解決のため、公益的な活動を行っている市民団体などが専門性や柔軟性を生かし、市民と行政と一緒に「狛江のため」に取り組む協働事業の提案を募集している。

狛江市前期基本計画に掲げる市民参加・市民協働を推進するのが目的で、令和3年度に市内で実施可能な事業であるなど、一定の要件を満たしていれば、どんなテーマでも自由に提案できる。担当の狛江市政策室では「良いアイデアがあったら、気軽に応募して欲しい」と

呼びかけている。【対象となる事業】提案団体と市が行う協働事業で次の条件を満たすもの。◇市内で行われる事業 ◇令和3年度に実施可能 ◇地域社会の発展または地域の課題や社会課題の解決が期待できる ◇協働で実施することにより大きな効果が期待できる ◇協働で実施することが可能で、その役割分担が明確かつ適切 ◇単年度で完了(年度ごとの申請と選考で連続した提

案は可能) 【提出書類】①指定の提案書②実施計画書③収支計画書④定款・会則⑤名簿等 【募集期限】6月5日(金)までに政策室市民協働推進担当へ。選考は公開プレゼンテーションで行う。制度の内容や書類など詳細は市ホームページ(提出書類のダウンロード可)を参照。 【問い合わせ】 ☎3430-1111 狛江市政策室市民協働推進担当。

タイムカプセル50

証言=渡部典子さん(79)=西野川1丁目、金崎芳子さん(82)=同、関根淳子さん(79)=西野川2丁目、太田良枝さん(76)さん=西野川3丁目

浸水に苦勞した旧野川流域

◆旧野川(現在の野川緑地公園)は、普段は水量は多くありませんが、昭和30年代後半になると流域に家が増えて生活排水が流入し泡が立ち臭かったです。普段は細い流れですが、大雨が降ると一気に増水して曲がった所では水があふれました。土を盛って道路より高くした家もありましたが、床下浸水した家も多かった。まだ下水道がなかったため、家も庭も汚水にまみれて後片付けが大変でした。 ◆周辺の道は舗装されておらず、蓋のないU字溝が道の両側にあり、生活排水が流れていました。雨が降るとぬかるんで歩くのも大変でした。雨の日には都心へ買い物に行く時は、バス停「覚東」前の商店に頼んで長靴を置かせてもらいました。 ◆大手不動産業者が開発した分譲住宅に39年に入

居しました。近い将来、公営水道ができるという説明でしたが、入居当時は10軒ほどのブロックごとに簡易水道のタンクがあり、くみ上げた地下水を各戸へ配水していました。当番を決めて月1回、タンクへ殺菌消毒用の薬剤を投入しましたが、高いタンクに付いたはしごを上るのがこわかったです。自宅にも自家用の井戸を掘りましたが、手押しポンプだったので、簡易水道を使うことが多かった。しばらくして公共水道になった時は、すぐうれしかったです(註:43年に町内全域に給水された)。



旧野川と建設中の神代団地(昭和39年、富永と身さん提供)

●市制施行50周年を迎える狛江市。昭和45年頃の街の様子や暮らしを市民の証言や写真でつづります。